
Baby princess ~ 新たな家族？ ~

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B a b y p r i n c e s s ｝新たな家族？｝

【Nコード】

N 4 8 4 4 W

【作者名】

？紫苑？

【あらすじ】

B a b y p r i n c e s s に新たな家族が！？

初めての投稿なので駄文だとは思いますが見ていってください感想もできれば書いてください。お願いします（ぺこり

人物紹介（前書き）

初めましてはるです

人物紹介

長谷川 優輝（ハセガワ ユウキ）

身長 189？

体重 59？

容姿

外を歩くと誰もが振り向くような容姿

金髪 青い目

上の上

自覚なしで鈍感

性格

クールだけど

誰にでも優しく好かれている

男子に兄貴と呼ばれ慕われている

子供に好かれやすく子供好き

備考

弟がいる3歳と1歳

炊事 洗濯 何でも得意

成績優秀 運動神経抜群

親は事故で他界

親戚はいない

喋るときは「・・・」をつけて喋る

キレるとつけない

喧嘩が強いけど、自分からはしない

雲と同じクラス

長谷川 友（ハセガワ トモ）

優輝の弟まだ3歳

優輝のことは「おにーちゃん」という

おにーちゃんと慧が大好き

黒髪で青い目

長谷川 慧（ハセガワ ケイ）

優輝の弟まだ1歳

喋り方は「だあ？ ぶう？」

おにーちゃん達が大好きで片時も離れたがらない

おにーちゃん達の姿が見えなくなると泣き出す

茶髪で青い目

備考

学校に許可をとり

弟たちも学校に行く

学校には保育ルームがある

たまに授業にも連れて行く

人物紹介（後書き）

続きは早めに更新したいと思います

のんびり登校

・・・俺はケイを抱っこしながら家を出た

悠「...行つてきます」

ト「行つてきまゝす!」

ケ「ばあぶ!」

・・・なぜかケイまであいさつをしたが

・・・まあいいや早く学校に行こつ。

・・・俺は高校生だ　けど親がいないので

俺が弟たちの世話をしている

・・・しかしトモとケイが俺と離れたがらないので

先生に許可をもらい　2人を連れて学校に来たのだ

悠「・・・着いた」

ト「とおーちゃーく!」

ケ「ちよーちゃーきゅ」(とーちゃーく)

・・・またケイも返事をした。

・・・言葉理解してるのかな?

男「兄貴　おはようございます。

トモさんとケイさんもおはようございます」

悠「・・・おはよう」

ト「おはよー」

ケ「ぶう(プイッ)」(プイッ　おにーちゃん以外の人となんか話したくないよ〜)

男「あはは、　ケイさん　きついつスね」

悠「・・・人見知り？」

男「人見知りなんすか？」

悠「・・・たぶん 家族以外の人とは話さない」

男「人見知り なんすかそれ？」

悠「・・・うん」

女2「キヤー／＼／ 悠さんよ 今日もクールだわ」

震「悠 おはよう」

悠「・・・震か おはよう」

女2「キヤー／＼／ 震様もいるわよ」

悠「・・・震 相変わらず人気だな」

震「いや お前のほうが人気だろ」

悠「・・・おれが？」

震「気づいてなかったのか！？」

悠「・・・俺は人気じゃないよ？」

震「気づいてないだけさ（鈍感もここまでくればすごいな）」

男「わゝ 本当だ 震様と兄貴がいる やっぱ絵になるなあ」

女1「そうだよゝ けど震様がうらやましいなあ

かわいくて 頭もよくて それに悠さんと仲がいいなんて」

女2「うんうん」

・・・何か女の子たちがこっち見てなんか言ってる

どうしたのかなあ・・・聞いてみよう

のんびり登校（後書き）

予定通り更新できました

まだまだ登校（前書き）

かなり遅れました ごめんなさい
何回か更新しようとしたんですが書いて消えての繰り返しでやる気
なくしてました
けど、復活しました

まだまだ登校

・・・

優「・・・どうしたの？」

女「えっ／＼／＼（キヤー／＼／ 王子様がこんな近くに!!）

いいえ なつ何でもありません！」

優「・・・そう？ ・・・何かあったら言ってね」

女「はっはい！ ありがとうございます」

・・・大丈夫そうだったので俺は校舎に向かって歩き始めた・・・

女2「美央すごいじゃん 優さんに話しかけられるなんて」

美「うっうん はあ 緊張したあ」

ト「なんで きんちようするの？」

美「えっだって 優さんに話しかけられると緊張す ・・・えっト

っトモくん!？」

ト「うん。 トモだよ」

美「なっなんで ここに？」

ト「おにーちゃんがこっちにきてたからー」

美「そうなの？」

ト「うん」

優「・・・トモ 行かないのか？ ・・・行かないならおいていく

ぞ？」

ト「いくー いくからおいてかないで」 （ウルウル）

・・・っ かわいすぎる

優「・・・っ!？ じょ冗談だから・・・ なきやめ」

ケ「ばあぶ!!」（そうだよ なきやんで）

ト「うっうん ケイもありがとね」

優「・・・いくぞ」

ト「うん！」

ケ「ぶっ！」（いく！！）

・・・いつのまにか震はどこか行つてたが

無事に学校に着くことができてよかった

まだまだ登校（後書き）

短いですがここまでにしときます
次は早めに更新したいと思います。
できれば、感想を書いてくれるとうれしいです

IN 校舎（前書き）

やっと学校にはいりました！ 長かったですね
優「・・・長すぎ・・・いつまで外にいるんだ？」
あははゝ ごめんねゝ
おこられちゃったよゝ

では、はじまりはじまりゝ

IN 校舎

～廊下～

・・・やつと、学校に入れたよ
・・・今日は、トモとケイはどっちにいるんだろつきいてみるか

優「・・・今日はどうする？トモ、ケイ？ 教室行くか？」

・・・それとも保育ルーム行くか？
ト「おにーちゃんといっしょがいー」
ケ「だつ（コクコク）」（ぼくもー）

・・・けいが必死にうなずいてる
・・・2人とも俺と一緒にいらしい
・・・まあ今日は教室につれてくか

優「・・・今日は教室な・・・明日は保育ルーム行くんだぞ？」

ト「ええー・・・わかったあ」

ケ「だぶう～ぶう～だ（ブンブン）」（いやだあ～ おにーちゃんといっしょがいー）

優「・・・だあめ トモだって我慢してるんだから
・・・じゃあ今日、保育ルーム行きたい？」

ケ「ぶうぶう（ブンブン）」（いやだあ～）

優「・・・でしょう？・・・だから今日は、教室・・・明日は保育ルームね」

ケ「ぶう」（わかったよあ）

優「・・・えらいえらい（ナデナデ）」

ケ「だあぶう」（えへへ／／おにーちゃんにあたまででもらったあ～）

ト「ケイだけずるい～ ぼくもなでて～」

優「・・・はいはい（ナデナデ×2）」
ト「やったあ」

・・・そんなになでもらうのが好きなのかなあ？
・・・まあいいか　はやく行かないと遅刻しちゃう

優「・・・じゃあ行くか」

ト「うん！」

ケ「だぶっ！」（うん！）

IN 校舎（後書き）

優「・・・やっと学校に入れたね」

あはは「ごめんね」次は、教室にはいれるから」

ト「きょーしつ！はやくいきたい！」

ケ「だっ！」（ぼくも）

トモ君とケイ君は教室が好きなんだね」

？ 僕？ もちろん僕は教室きらいだよ？ あはは」

教室で・・・（前書き）

やっと教室だよ

優「・・・遅かった」

ト「やったあ」

ケ「だっ」（やったあ）

教室で・・・

「教室」

ガラガラ

優「・・・おはよう」

ト「おっはよ」

ケ「ぶう」(・・・おはよう)

み「あつ優さん(兄貴)おはようございます」

優「・・・はよ」

女「今日は、トモ君とケイ君も教室ですか？」

優「・・・うん・・・今日は、教室」

女「キヤー やったあ(かっこいい優さんにかわいいトモ君・ケイ君も

今日、ずっと教室にいるなんて うれしい)」

・・・なにがやったあなんだろう・・・女の子は不思議だな

ト「どしたのー？」(上目づかいでくびをかしげる)

ケ「ぶう？」(どしたの)

女「ノノノいっいえ なっなんでもありませんよ(やばい 鼻血が)

「

ト「かお まっか」

女「えっそっそんなことはありませんよ」

優「・・・真っ赤」

女「えっゆっ優さんまで！？(何か、はっ恥ずかしくなってきたノノ)」

優「・・・大丈夫？ 風邪？」

女「いえっ 風邪じゃありませんよ！（・・・鈍感でしたね）」

優「・・・本当？ 顔真っ赤だよ？ 保健室行く？」

女「いっいえっ 本当に大丈夫ですから！」

優「・・・そう？ 具合悪くなったら教えてね？」

女「はっはい！（優さんに心配されるのはうれしいけど・・・勘違いされてるのはちよつと複雑）」

優「・・・気を付けてね」

女「はっはい ありがとうございます！」

♪

・・・チャイムが鳴った

・・・先生が来るから早く座らないと

・・・この教室にはなぜかトモとケイの机と椅子まである

・・・しかもサイズぴったり

教室で・・・（後書き）

中途半端で終わっちゃたね　あはは

優「・・・せめてきりのいいところでやめてほしかった」

ト「あはは　ちゅーとはんぱ」

ケ「・・・」（じ）

ケイ君そんな目でみないで

次はちゃんときりのいいところでやめるから

次は先生が出てきますよ

続きは早めに書きたいと思います

優「・・・キャラ変わりすぎ」

・・・あはは

ホームルーム（前書き）

やっと先生出てくるよ～
遅かったね～

でわでわ　んじゅん

ホームルーム

IN教室

ガラガラ

「おはようございます」

「おはようございます」

「はい。 それでは、ホームルームを始めます」

「はーい」

「まずは、出席を確認します」

相川玲さん

「はい！」

「天使霏さん」

「はい」

・・・相変わらず霏はクールでかつこいいな

・・・うらやましい

「神山陣君」

「はーい」

・・・こいつは陣 このクラスで2人だけの男子だ

・・・なぜか、俺のことを兄貴と呼ぶが・・・

・・・顔は結構イケメンだと思う

「／／はっ長谷川ゆっ優輝くん」

「・・・はい」（・・・なんで、顔赤いのかな？）

「今日は、トモ君とケイ君も一緒なのね」

「・・・はい」
「それでは、長谷川友君、長谷川慧君」
「はい！」
「あい！」（はい！）
「はい！ よく出来ました」
「やったあ」
「あい！」（やったあ！）
「（かわいいい！）」
「・・・どうしたの？みんな・・・鼻押さえて・・・」
「トモとケイがかわいすぎるんだろう なっ？だろっ？」
「はっはい」
「・・・そう・・・ならわかる」
「（分かるんだ！？）」
「優輝はブラコンだな」
「・・・そう？・・・囊もだと思っけど・・・」
「私はシスコンではないぞっ！？」
「・・・囊・・・あわてすぎ」
「わっ私はあわててなどないぞ！？」
「・・・うそ・・・あわててる」
「あわててない！！」
「・・・はいはい」
「信じてないな？その顔は！！」
「・・・信じてるって」
「（すごい・・・いつもクールな囊様があわててる！ 優さんって何もの！？）」
「あはは」 おにーちゃんがたくさんしゃべってるうめずらしいね
「あいあい（コクコク）」（めずらしい）
「・・・そんなこと・・・ないぞ？」
「あはっ てれてるう」
「・・・てっ照れてないぞ！？」

「あう／＼／（なぜ、私が優輝相手に照れないといけないんだ！？
優輝もなぜ照れてる！？）」

「・・・囊？・・・どうした？」

「なっなにが？」

「・・・顔が赤い・・・風邪？」

「ちっ違うぞ！？」

「・・・ほんと？」

・・・俺は大丈夫かどうかを調べるためにひたいとひたいをくつつ
けた

・・・そしたら

「なっなにを！？（／＼／顔が近い／＼／プシュー）ボタン

「・・・囊？・・・どうした！？

・・・先生！ 囊が倒れたので保健室に連れて行っていい
ですか？」

「はっはい！ いいですよ」

「・・・ありがとうございます」

「いいえ」

「・・・トモ、ケイいくぞ」

「うん！」

「あい」（いく！）

ホームルーム（後書き）

すごいキャラ崩壊しちゃいました！

優「・・・俺は照れてないぞ！？」

またまた！照れてるくせに

うわぁにらまないで！ごめんなさい！ごめんなさい！・・・

保健室！？
(前書き)

遅くなりました

リアルタイムで書くのでおかしいかもしれません

保健室！？

・・・雲をお姫様抱っこで保健室に連れて行った
先生が倒れた理由を聞いて来たので
話したら

・・・雲に憐れむような視線と
・・・俺にあきれたような視線を送ってきた
・・・？意味が分からない

「だいじょーぶなお みぞれねーちゃん」
「あいあい」（ぼくもしりた〜い）
「大丈夫よ 雲さんは・・・ あと少ししたら目が覚めるとおもっ
わよ？」

コンコン

「は〜い」
「失礼します」
「あらっ 氷柱さんじゃない どうしたの？」
「はい。担任から言いつかりましてクラスの健康カードを
取りに来ました」
「あゝ なるほどね〜 はい。」
「ありがとうございます」

・・・氷柱が来たみたいだな

「あゝつららねーちゃんだあ」
「えっ トモ君がなんでここに？」

「・・・雲が気絶しちゃったから一緒に連れてきた」
「えっ 優兄さまも!? 雲姉さまは大丈夫なの!？」
「大丈夫よ あともう少しで目が覚めるところから」
「そうなんですか。なぜ気絶したんですか？」
「・・・それは・・・分からない」
「おー ふたりともかおまつかだつたよ？」
「あゝ なるほど(・・・優兄さまの鈍感が原因か)」

「・・・何故か氷柱まで雲に憐れむような視線を送っているぞ？」
「・・・なぜだ？」

「あつ そういえば 家に男が住み始めたんですよ？」
雲姉さまから聞いてませんか？」
「・・・男?・・・あの女だらけのところに？」
「女だらけって・・・まあそうですね」
「・・・名前は？」
「陽太郎っていうみたいです」
「・・・!?・・・それって高校１年生で剣道してた？」
「あつ はい たぶん・・・知ってるんですか？」
「・・・うん・・・知り合いつていうか剣道で戦ったことある」
「優兄さまって剣道してたんですか？」
「・・・うん・・・少しだけ」
「へえー 意外ですねえ」
「・・・そう？」

「・・・陽太郎は純粋な目をしていたから・・・よく覚えてる」
「・・・そういえばこの前ヒカルと試合したって言ってたな・・・それで、引越すことになったって

・
・
・
天涯孤独つて嫌だよな

保健室！？（後書き）

会話文長いですね

変じゃなかったですか？

感想などよろしく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4844w/>

Baby princess ～新たな家族？～

2011年11月13日04時39分発行